

科学をもっと知ろう！

かがくナビ

茂庭の海

今から1600万年前、茂庭一带に海が入り込んでいました。この時代に堆積した地層が茂庭層です。この茂庭層は、おもに砂岩・れき岩などよりなり、豊富な化石を含んでいます。特に貝類・大型有孔虫・ウニ・サンゴ類などが有名です。

北赤石（赤石橋付近）から採集できる化石は、サザエ・クボガイなど岩石にくっついて生活している巻き貝や、穿孔貝であるカモメガイの仲間の巣穴などから、この時代には波の強くあたる岩礁地帯であったと考えられます。また、赤石橋の下流部において、絶滅した海生哺乳類のパレオパラドキシアの化石やオウムガイ類のアツリアの化石も採集されています。このアツリア化石の発見は、東北地方からの初産出であり、産出北限であった茨城県北部



（パレオパラドキシアの想像図）

より約150km北方まで産出分布を大きく塗り替えることとなりました。



（アツリア化石）

茂庭層から採集される化石の種類から、茂庭層堆積当時の海はかなり暖かかったと考えられます。